

マス商事

中国でSMTライン提案

4月以降も好調維持を予想

製造装置商社・マス商事は、実装機を主力にSMT（表面実装）工程全体の設備提案を強化している。中国・華南地区を担当するマストレーディング（深圳）も、SMTトータルのワンストップソリューションの提案を積極的に行っている。



廣瀬 総経理

マハの戦略に連動して事業の拡大に取り組んでいる。

同社はヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として実装機を中心に、ヤマハ発動機以外も含めてSMTに関わる製造装置を幅広く扱う。国内のほか、海外展開する日系企業を主対象に中国はじめ東南アジア、インド、メキシコに営業拠点を構えている。

ヤマハ発動機は、ほとんど印刷機、実装機、検査装置（SPI、AOI）、SMDストレーディングシステム（部品保管庫）、産業用ロボット、さらに半導体前工程とSMTの融合領域まで扱い、ワンストップソリューションを推進する。マス商事もヤ

マハの戦略に連動して事業の拡大に取り組んでいる。中国は、マストレーディング（深圳）をヘッドに蘇州分公司を構えている。深圳は東莞、広州を中心とした広東省はじめ華南地区を主要エリアに、蘇州は上海、江蘇省を中心とした華東地区や大連、天津など北部地域を担当する。

マストレーディング（深圳）の廣瀬幸治総経理は「華南地区の日系製造業は、昨年は設備投資に慎重だったが、10月以降、むしろ積極的な投資が行われている。EV、スマホ関連が多いが、中国ローカル企業では5G基地局、データセンター、大型LEDディスプレイ、ブルートゥースモジュール、デジタル家庭電など広がっている。

まで視野に置いたワンストップソリューション事業の拡大に取り組んでいる」と話す。

これまで手作業だった部分はんだ付けにロボットやディップを導入してインライン化する動きや、AGV（自動搬送車）を使ってラックの搬送に用いるケースなど、実装工程の自動化を望む声が増え

ている。全工程を自動化するとコストもかさむので、工程の部分部分を自動化して2、3人分の省人化を図るといった取り組みなどにも対応する。

廣瀬総経理は「設備の更新需要だけでは売り上げを伸ばすことが難しいので、実装前工程や後工程まで含めた自動化による生産品質の向上を提案することで、顧客の高品質なもののづくりに貢献したい。中国はこのところ地域的にコロナ感染が再び拡大し、都市封鎖などによる行動制限などの影響が出ており、華南地区でも感染拡大

による影響が懸念されているが、上期（21年10月～22年3月）は昨年並悪くなることはないだめの推移となる。SMT「ろう」とみている。